

情報提供の大切さ

塩野義製薬株式会社 第五学術部
波多江 安彦

MRという呼称が市民権を得て10年になろうとしています。その昔、私が新人の時にはMRではなく「プロパー」と呼ばれており、また先輩MRからも「先生の言う事は、人殺し以外は何でもするんやで」と言い聞かされ、それを忠実に守っていた自分の姿を昨日の事のように思い出します。医局で若い医師にデイトール^(注1)活動を行っている時に、医局長から「おい、そのプロパー!! そんなところで遊んでないでこっち来い」と荷物運びを命ぜられ「遊んでるんじゃない。デイトールしてるんや」と悔しい思いをした事もありました。

そんな時代を経て、ここ数年は以前のような無茶を言う先生も減り、我々の仕事もプロパーからMRへと確実に進化しつつあります。MR活動にあたっては、薬の特徴のみならず、製品に関連する疾患の疫学・病態・標準的治療方法・あるいは医療制度等に至るまで、幅広い知識が要求されます。MRは専門的知識が要求される「知的活動職」です。

私がMRになって良かったと思う時、それは先生からの感謝の言葉を頂いた時です。私が提供した情報を活用して下さった結果、患者さんの状況が好転した。先生から「おかげで患者さんが助かった。患者さんとそのご家族から喜んで貰えたよ!」と言ってもらえた時こそMR冥利につきます。

さて、弊社の塩酸バンコマイシン注はその血中濃度が、点滴終了後1～2時間値が25～40 μ g/mlを超えないことが望ましく、また最低血中濃度が10 μ g/mlを超えないことが望ましい薬剤です。投与量が少なすぎると効果が出ない、一方、投与量を誤ると副作用が発現してしまう。健常成人ならば通常投与量を投与できますが、この薬剤が必要とされるMRSA感染症では高齢・重症・全身状態低下の患者さんが多いのです。抵抗力の落ちている全身状態の良くはない患者さんには必要最小限かつ十分な薬剤量を先生にお勧めするのです。つい最近も先生から携帯電話がかかってきました。相談されたケースは「MRSAに感染している後期高齢者の患者さんで腎機能も良くない」とのことでした。そこで「今日はこれだけ、明日以降は1回〇〇mgを△時間おきに投与し、4, 5回目の投与の際に血中濃度を測定して欲しい」と伝えました。3日後に先生に面談すると「腎機能が悪化している」との情報。しかもまだ効果も十分とは言えない病状です。先生としては、効果を期待してもっと量を増やしたい、しかし副作用を考慮すれば減量せざるを得ない、どうすればいいのか!?という状況です。早速、血中濃度解析ソフトを用い、先生から教えて頂いた患者さんの情報を

もとに最適な投与方法を提言しました。幸い数日で、副作用もなく悪化することなく患者さんは回復されました。先生からは「今日で点滴も終了できました。途中どうなる事かと思いましたが。どうもありがとう！」という感激の言葉をいただきました。このような経験が重なる事は我々MRのモチベーション向上につながります。自分だけでなく、もっと周りのMRにも同様の経験を積んで欲しいと思います。

しかし一方、まだまだ我々の情報提供が不十分だと痛感する出来事もあります。最近、身内が癌で亡くなりました。WHOの癌疼痛緩和基本5原則が紹介されて20年にもなるのに最後まで痛みが残っていました。我々がモルヒネやオキシコドンの適正な薬剤情報を全ての医師に確実に伝えていけば、このような患者さんはもっともっと減るはずです。まだ癌の痛みで苦しんでおられる患者さんはたくさんいます。我々の情報提供を急がねばならないのだと考えます。

医薬品は情報が附随しなければ「単なる化学物質」に過ぎません。化学物質に適正な情報が付加され初めて医薬品として機能します。この過程においてMRが大変重要な役割をこなしているのです。今後もMRとして医療従事者の方や、患者さん、そのご家族の方に喜んで頂けるような情報提供を続けて行きたいと思います。

(MR経験 20年)

(注1) 自社製品の使用上の注意や効能・効果などの詳細について説明すること